

保育所における一時的保育に関する調査研究

児童家庭福祉研究部 須 永 進

要 約

近年、保育ニーズの高まりと多様化の進展によって、新たな保育の形態が試みられるようになった。例えばこれまでの保育所の多くは「保育に欠ける」子どもを対象とした保育施設としての役割を担ってきたが、他方保護者や子どもの都合で緊急に、あるいは週に何日か決められた日に保育所で保育が受けられる一時的保育が数年前より実施されるようになった。今回この保育の利用者を対象に調査を行なった結果、利用者の多くは安心して仕事ができ、精神的なゆとりが持てるだけでなく、子どもの成長と発達面からおおむね満足している反面、利用できる保育時間の短さや保育料についてはやや不満の意を示していることが明らかになった。今後の課題としては、こうした問題の解決を図りつつ、子どもの成長と発達を保障する立場にたって一時的保育の特徴をふまえた、新たな保育方法と内容の構築が急務になっている。

見出し語： 保育ニーズ、一時的保育

A Study on a Temporary Care in the Day-Care Center

Susumu SUNAGA

Abstract

Today new child-care ways have tried by the progressive child-care's needs and the diversification. Most of the day-care center, for instance, took care of the child who needs the care and played an important role as the child-care center by now. On the other hand, the temporary care has taken effect from some years before in an emergency the child needs the day-care could make use of these day-care services in the day-care center. According to the survey this time, The results are following: Most of parents could experience the emotional peace of mind, get plenty of works and are satisfied with their child's grow-up. But some of them have disatisfactions of the day-care time and fee. Now we must solve the severe problem, create new care ways and contents to secure the child's rights that they can grow up soundly.

Key Word : care needs、temporary care

I. はじめに

近年働く女性の増加と就労形態の多様化に伴い、保育ニーズが高まり、そのための新たな保育システムが強く求められるようになった。それは今後の保育の方向性を示すと思われる、いわゆる「エンゼルプラン」（『今後の子育て支援のための施策の基本的方向について』平成6年12月）においても「多様な保育サービスの充実」として、①保育システムの多様化・弾力化の促進、②低年齢児保育、延長保育、一時的保育事業の拡充、さらには③保育所の多機能化のための整備などが明記されていることから明らかである。

また、こうした保育ニーズに対する経年的な推移を見ると、例えば延長保育の実施状況は昭和63年時に487カ所の保育所で行われていたが、平成7年には厚生省の調査によると、2,282カ所とほぼ5倍の増加になっている。さらに、低年齢児である乳児保育に関してはここ7年間に約2倍に増えている。

このように保育ニーズの高まりはこれまでの保育の形態を変えようとしている。例えば、通常の保育は措置児童を対象に、特別な場合を除くと8時間ないし9時間程度の保育を受けるものであったが、それまで保育所を利用したことがない、あるいは措置の対象でなかった保護者が緊急にあるいは週に何回か保育所を利用できる「一時的保育」の実施によってそうした状況が変化している。

この一時的保育事業もニーズが少なくなく、平成7年には457カ所見込まれている。

しかしながら、その実施状況や現況については必ずしも多くが明らかになっているとは言えない。なかでも一時的保育を利用している利用者に関する調査研究そうした傾向が顕著である。¹⁾

II. 研究目的

この調査研究では、こうした現況を踏まえて保育所における一時的保育の状況を利用者がどうみているのか、実施の利用状況及び現行の方法がニーズに合っているかどうか、また現行の問題点は何か、などを明らかにすることを目的としている。そのことにより今後もニーズの高まりが予想される一時的保育のさらなる普及と質的向上を図っていくための一資料になるものと思われるからである。

III. 研究方法と調査対象

本年度は、一時的保育を利用している利用者を対象に質問票による調査を中心としたが、必要に応じて担当の保育者からの聞き取り調査を行なった。今回調査対象と

した保育所は、以下の地域における認可保育所で、回答にあたっては重複しないように利用者ひとりに1票とし調査期間はおおむね2～3カ月間とした。その結果今回の調査票の回答者数は合計で195人であった。

北海道	・函館市	2カ所	(38人)
岩手県	・花巻市	1カ所	(52人)
神奈川県	・平塚市	1カ所	(62人)
埼玉県	・狭山市	1カ所	(26人)
静岡県	・静岡市	1カ所	(17人)

IV. 調査結果及び考察

1. 保育形態

まず、一時的保育の形態としてはほぼ6:4の割合で非定型が多くなっている。ただし地域差または保育所間にかんがりの格差があることが特長として見られた。

2. 子どもの年齢および性差

一時的保育を受ける子どもの年齢では、長子に限って見ると、2歳から3歳未満までの子どもが全体の34.4% (67人) と一番多く、3歳児を含めると全体の過半数にあたる57% (111人) を占めている。それに対して0歳児の利用は1割程度 (22人) に過ぎず、現行の一時的保育は乳児より幼児に多く利用されているといった結果が見られた。また、今回調査の対象となった男女の割合は男児の106人に対して女児の88人 (不明1人) と男児が18人程多くなっている。

なお、第2子では1歳未満児は3人、1歳児13人、2歳児3人、3歳以上2人の計21人で男児6人、女児15人であった。第3子は2人の女児となっている。

3. 利用者の年齢

一時的保育を利用している者の年齢は、30歳台が多く、約4割を占めている。さらに、25歳以上を含めると全体の7割近くになる。

4. 子どもとの続柄

調査票の記入者と子どもとの続柄では、母親が約95%にあたる185人で、父親はわずか7人・3.6%であった。

5. 家族形態

家族形態を見ると、調査対象全体では7割強が核家族で占められているが、地域別には都市部にある保育所で8割以上と高い反面、農村に近い保育所では5割台になっている。また、ひとり親家庭による利用は4人 (2.1%) であった。

6. 就業の有無

一時的保育を利用している者の就業の有無は、就業している者が55.9% (109人) で、就業していな

い者は全体で32.8%にあたる64人であった。また、以前に就業していた者が11人(5.6%)で、現在求職中と回答した者は9人(4.6%)になっている。就業者の仕事の形態は、常勤が5人にひとりの割合にあたる48人(24.6%)、非常勤がそれに近い43人(22.1%)で、自営は19人(9.7%)という結果であった。これは通常の措置による保育に比べると常勤者およびパートを含む就業者の利用の割合が低いといった、一時的保育のひとつの側面が示されていると言える。

7. 利用経験の有無

一時的保育を利用した経験については、「以前から利用している」という回答が、「今回はじめて」利用した者95人(48.7%)よりわずかに多い、97人(49.7%)であった。こうした利用経験の有無に関して、今回利用者への調査と同時に実施した施設側に対する調査票から判断すると、この一時的保育の制度を早くから導入し、取り組んでいる保育所や保育ニーズの高い地域にある保育所では、当然のことながら「以前から利用している者」の割合は高く、反対に保育所にこうしたシステムのあることをこれまで知らなかったり、保育所が近づくに利用しにくい地域での利用者は「今回はじめて」利用する割合が高いといった実施状況の違いにあることが明らかになった。

8. 利用時期

この一時的保育をいつごろから利用しているかについて回答している103人のうち、「1年以上前から」が30人と一番多く、およそ3人にひとりの割合になっている。これに「6カ月以上前から」を含めると、48.5%になり、利用者のほぼ半数に近い者が6カ月以上前から一時的保育を利用していることが明らかになった。またそれとは反対に1カ月から6カ月以内には、それよりやや多い53人で割合では51.4%になっている。このことから、調査を実施した平成8年時点での利用時期に関しては、6カ月を境に比較的最近利用し始めた群と以前から利用している群に2分される傾向が見られた。

9. 一時的保育のない時の保育

次に一時的保育がなかった時期あるいは利用しなかった時の保育状況については、全体の約半数に近い44.1%すなわち86人が子どもを「預けていなかった」と回答している。次いで「母の親」が多く、43人(22.1%)であった。それ以外では、「父の親」が16人(8.2%)で、以下「親戚」8人(4.1%)、「友達」7人(3.6%)と続いている。保育施設では、「無認可保育所」を利用した者が10人(5.1%)でベビシッターは4人(2.1%)といった結果であった。

10. 利用理由

今回の調査項目の中心である利用理由については、10項目から複数選択する方法による回答を求めている。その結果を見ると、仕事を選択している者の割合が高く、複数回答ながら、45.6%にあたる89人見られた。これは、措置の対象でありながら、保育所に入れない子どもや待機の状態にある保護者が「日々」ではないが非定型にあるいは緊急にこの一時的保育を利用しているという今日的保育事情をこの結果から十分推察される。次いで、友達や安全な遊び場が近くにない、または集団生活を経験させたいといった「子ども」の成長という視点から利用している者も多く、36.4%・71人がこの項目を選んでいいる。これは近年子どもを取り巻く生活環境の貧困さ、孤立化に親たちが気付き、子どもの成長と発達に保育所の集団を中心とした生活が大切であると意識されるようになった結果とも言える。また、これまで保育所を利用する者のなかには、どちらかという、自身の都合を優先させ、子どもが置き去りにされるといったケースも少なくなかったことから、こうした「子ども」の視点にたつて保育所保育が見直され、利用される傾向は望ましく、今後の動向が期待される結果になっている。この他では「普段面倒をみてくれていた家族の都合がつかなくなったから」を選択している利用者が多く、次いで「親自身の病気、ケガ」などがそれぞれ20%台になっている。また、これまでは制度的に親の仕事やそれに伴う理由によって子どもの保育に欠ける状況が保育所の利用の大きな理由であったが、この一時的保育の制度では、新たに親自身の子育てに対する精神面への援助として、いわゆる「リフレッシュ」のための保育所利用も大幅に認められる方向性が示されるようになった。その結果、今回の調査において、一部を除く保育所で、利用理由として選んでいる利用者が全体としては19人(9.7%)とわずかではあるが見られた。その他では以下、順に「家族や知り合いの看護・介護のため」(11.3%)、「保育所入所への待機期間のため」(9.2%)、「求職活動のため」(5.1%)と続いている。なお、一時的保育を実施している保育所側から見た利用理由に関する別の調査では²⁾、親の就労をトップに、家族の看護、親の病気、親の勉強、冠婚葬祭という順序になっている。多少順序に違いは見られるが理由としてはかなり近い内容と言えるが、今回の利用者側の調査と大きく異なる項目としては、「子どものため」に一時的保育を利用しようとする利用者の割合に見られる差である。すなわち利用者(親)が一時的保育を利用する大きな理由に子どもの成長をあげているが、保育所側の見方

ではその割合が8%の低率を示している。このギャップの意味するものが何かについては今後の調査と総合的な分析が必要になるだろう。

11. 利用の満足度とその理由

一時的保育を利用して満足している割合は約8割に達している(79.0%)。不満に思っている利用者はわずか4.6%に過ぎない。この結果から判断すると、多くの利用者は現行の一時的保育にほぼ満足していると思われる。その理由としては、「安心して預けられる」が多く、36.4%を占めている。次いで順に「保育者がよく面倒を見てくれる」(23.6%)、「子どもが喜んで通っている」(11.3%)、「集団生活の経験ができる」(10.8%)などが10%台で続いている。この他では、子どもの成長に関する項目がいくつかあげられている。

反対に、不満感を持つ者はわずか10人で、内容的には「保育の時間が短い」「保育日数が少ない」など一時的保育の日数や時間の短さをあげている。

12. 保育時の子どもの様子

一時的保育の場合、日々の保育ではないため、急に環境が変わり、保育する者が親から保育者に移るため子どもに過度の緊張を強いたり、不安や興奮を起こさせる状況のなかに置くような場合が少なくない。ここでは予想されるこうした状況を親から見て、どうなのか回答を求めた。それによると、「少しずつ慣れる」子どもが45%程度と多く、次いで「すぐ慣れる」子どもの35.9%となっている。しかしながら、慣れない環境のなかで、「泣き続けて親から離れない」子どもは全体で13人(6.7%)見られた。これを「はじめて利用する」場合と「以前から利用している」場合に分けて、「よく泣く」割合を相互にクロス集計すると、有意差は認められなかったが数的によく泣く子どもは「はじめて」に多く、「以前から」に比べほぼ2倍といった結果であった。また、少しずつ「慣れる」子どもの場合も同様に、「以前から」の方が「はじめて」より、慣れる割合が7ポイント程度高くなっている。したがって、子どもを預かる場合、特に「はじめて」来所した子どもの保育には十分な配慮が保育所および保育者に求められていることが改めて示唆される結果であった。

13. 子どもの変化

次に、一時的保育による子どもの変化については、約6割近くが「変わった」と回答している。その子どもの変化の内容を見ると、子どもの「精神的成長」をあげている者が30人で、これは全体の15%に相当する。また、「ことば」の発達を指摘している利用者が12.8

% (25人) 見られた。次いで、子どもの情緒や行動面に関しては意欲や積極性がでてきたとする者は11.8%おり、一時的保育が子どもの全体的な成長と発達に影響していることを言及する結果になっている。その反対に、子どもが「後追いをするようになった」や「甘えるようになった」、さらには「乱暴でわがままになった」といった変化の内容を感じ取っている利用者もわずかながら見られる。しかし全体の変化を見ると、子どもの成長と発達面でプラスにとらえている利用者が多く、なかでも障害を持つ子どもの場合そうした傾向が著しいと、担当の保育者は聞き取り調査で語っている。

14. 利用者自身の気持ちの変化

利用者すなわち親自身の気持ちはどうか、についての回答では、複数回答ながら「安心して仕事(用事)ができるようになった」が69.7%に達している。次いで、親自身の「精神的なゆとり」が47.7%と高い割合を示している。また、子育てについて「担当の保育者や他の親と話す機会が持てるようになった」という回答を選択した者が23.1%見られた。その他注目すべき項目として、子どもを一時的保育に預ける際に、つらい気持ちを持ちながら「自分(親)のため」と思って預けるか、あるいは「子どものため」と思うかでは、「子どものため」と思う方が3~4ポイント程度高く、12.8%見られる。また、保育所に子どもを預けること自体が「親の役目を果たしていないのでは、と思う」者が9.6%いることが明らかになった。

15. 今後の利用意向の有無

さらに、今日保育所において実施・運営されている一時的保育の利用について今後も利用する意向があるかどうかでは、「必要に応じて利用する」が約6割程度(57.9%)で、「積極的に利用する」を加えると、全体で94.3%(184人)を占める結果になっている。これは先に見た現行の一時的保育に対する満足度とほぼ符合する割合を示していると考えられる。また「どちらとも言えない」は2%で、「利用したくない」はわずか1人と極めて少なく、これからの一時的保育への利用は今回の調査に限定するならば、増加の傾向を示すことが十分予想される。

16. 一時的保育への要望

現行における保育所の一時的保育は一部を除くと、おおむねここ数年に実施している保育所が多く、その多くはなお試行錯誤の状態にあると言って過言ではない。ここでは、これからの一時的保育に対する要望の有無と、その内容について利用者に問うている。なお、その要望の具体的な内容については便宜上、1) 保育時間、2)

保育料、3) 保育設備・環境、4) 保育内容、5) 保育者、の5つの項目について回答を求めた。

1) 保育時間

まず、保育時間に関しては「要望あり」の割合が5つの項目のうち一番多く、全体の21.5%であった。そのほとんどすべてが保育時間や保育の日数を増やして欲しいというもので、今後保育時間の延長と保育日数の増すための具体的な取り組みが各保育所に求められてくるものと思われる。

2) 保育料

次に要望の多かった項目としては「保育料」がある。これは全体で16.4%をしめる要望項目であったが、この一時的保育に限らず、通常の保育においても保育料の問題は一般に関心が高く、その主旨の多くは「もっと低額に」といったニーズになっている。³⁾ 今回の調査でも一時的保育の保育料が高いので、もっと安くして欲しいとの要望がそのすべてであった。しかしながら現行の一時的保育の保育料が高いか否かの判断はさまざまな要因があるため難しい問題ではあるが、他方多くの場合一時的保育を行なうためには通常の保育の他に人的および物的な要因を必要するため、そうした点を十分考慮した適切な保育料の設定が不可欠であることに間違いない。また、当然この問題は保育所だけで解決できるものではなく、一時的保育を積極的に実施している保育所に対する新たな公的援助のあり方が考えられなければならない、その点を解決できるかどうか今後の方向性を示す大きな鍵になってくるものと思われる。

3) 保育設備・環境

次いで要望が求められた項目では、保育設備・環境がある(9.7%)。そこでは一時的保育を実施している保育所に対して改善してほしい点が指摘されている。その多くは、保育所の園庭や保育室をもっと広く、というスペースに関するものがほとんどで、現状では物理的に難しいニーズのひとつでもある。

4) 保育内容

実際の保育内容では、利用者の8.2%が要望ありと回答し、そのうち多いものとしては「外遊び」をもっとしてほしいというものであった。その他では、しつけや文字学習などのニーズがわずかながら見られた。

5) 保育者

この設問でもっとも要望の少なかった項目が保育者に対してであった。これは他の設問、例えば一時的保育への満足度でも保育者の対応や子どもに対する保育への評価が高いことから、十分うなずける。さらに今回調査対象となった各保育所へのアンケートにおいても、一時

的保育への保育者としてのかかわり方にどこも十分な配慮がなされていることが、結果として保育者への高い評価につながっているものと思われる。

V. おわりに

以上のように、利用者を対象に保育所における一時的保育に関する調査全般を通して見ると、利用する側から見た一時的保育の現状をはじめ、保育される子どもの状況や親自身の精神的側面などが一部明らかになった。特に注目しておきたいことは、おしなべて一時的保育に対する利用者の満足度の高さである。そうした背景には利用者のニーズに応えるためだけの保育でなく子ども自身の成長への満足感が利用者の理解を得ている点である。また、担当の保育者への、子育てを通しての信頼関係も看過できない要因になっている。しかしながら同時に解決しなければならない問題点や課題も明らかになっている。例えば、保育時間の増加や保育料の適正化などが利用者に指摘された点である。これらは今後利用しやすい一時的保育を進めていく上で解決すべき課題のひとつと言える。同時に、一時的保育と子どもの成長と発達についての視点も忘れてはならないであろう。通常の保育とは異なり、断続的に慣れない環境のなかで短い時間を過ごす子どもが充実した生活を送れるための保育が一時的保育には特に求められる。そのためには日々試みられている多くのすぐれた一時的保育の実践を通じて、子どもの最善の利益を尊重する新たな保育の方法と内容を構築することが急務であると思われる。

注

- 1) 社会福祉法人日本保育協会の「延長保育・一時的保育に関する調査報告書」(平成7年)は、一時的保育を実施している保育所のうち262カ所を対象に、実施状況全般をまとめた数少ない調査研究である。
- 2) 同上
- 3) 厚生省大臣官房統計情報部「平成8年度人口動態社会経済面調査の概要」、日本労働組合総連合会「女性の就業と保育に関する調査報告」(平成5年)など参照

最後にこの調査に協力いただいた、高盛保育園、三育保育園(北海道)、第二若葉保育園(岩手県)、狭山台みつばさ保育園(埼玉県)、平塚保育園(神奈川県)、あゆみ第二保育園(静岡県)の先生方、そして回答して下さった方々に心より深謝申し上げます。また、調査票の集計にあたっては、母子保健研究部の斎藤幸子主任研究員の助力を得ました。併せてここに謝意を表します。

一時的保育に関する利用者調査票 (非定型・緊急)

1. 一時的保育を利用されるお子さんの年齢と性別をお教え下さい。年齢は数字で、性別は該当するものに0印をつけて下さい。また、あなたの自身の年齢及びお子さんとの続柄をお書き下さい。

a) お子さんの年齢・性別

①	_____歳	_____カ月	(男・女)
②	_____歳	_____カ月	(男・女)
③	_____歳	_____カ月	(男・女)
④	_____歳	_____カ月	(男・女)

b) あなたの年齢はおいくつですか。 _____ 歳 c) 続柄 ()

2. あなたの家の家族形態は次のどれですか。

① 核家族 ② 三世大家族 ③ ひとり親家庭 ④ その他

3. あなたは現在、何か仕事(パートを含む)をしていますか。

① はい ② いいえ ③ 前はしていたが今はしていない ④ 求職中

4. 質問3で、①のお仕事をしている方にお聞きします。その仕事の形態はどれですか。

① 常勤 ② 非常勤・パート ③ 自営 ④ その他 ()

5. 一時的保育を利用するようになったのははじめてですか。

① 今回はじめて ② 以前から利用している

6. 質問5で、②の「以前から利用している」方にお聞きします。それは①週平均何回くらいで、②一回の利用時間はだいたい何時間くらいですか。カッコ内に数字でご記入下さい。

① 週平均 () 回 ② 一回の利用時間 () 時間

7. 質問5で、②の「以前から利用している」方はいつごろから利用されていますか。

① 1カ月前から ② 2~3カ月前から ③ 4~6カ月前から
④ 6カ月~1年以内から ⑤ 1年以上前から

8. 一時的保育の制度がなかった時、お子さんを誰(どこ)に預けていましたか。

① 母の親 ② 父の親 ③ 親戚 ④ 友達 ⑤ ベビーシッター
⑥ 無認可保育所 ⑦ 預けていなかった ⑧ その他 ()

9. 一時的保育を利用する理由を3つ以内(必ず3つを選ぶ必要はありません。1つまたは2つでも可)で選んで下さい。

① 仕事(パートを含める) ② 親自身の病気・ケガ、検診や治療院など。
③ 冠婚葬祭に出席のため。 ④ 家族や知り合いの看護・介護のため。
⑤ リフレッシュ(買い物や習い事、友達との会合など)のため。
⑥ 子どものため(友達や安全な遊び場がない、集団生活を経験させたいなど)。
⑦ 保育所入所への待機期間にあるため。 ⑧ 求職活動のため。
⑨ 普段面倒をみてくれていた家族(祖母など)の都合がつかなくなったため。
⑩ 上記の①~⑨以外の理由

10. 一時的保育を利用して、満足ですかそれとも不満ですか。ひとつ選んで下さい。

① 満足している ② どちらともいえない ③ 不満である

11. 質問10で、①の満足している方にお聞きします。その理由は何か。

理由: _____

12. 質問10で、③の不満のある方にお聞きします。その理由は何かですか。

理由: _____

13. 一時的保育を利用する際、お子さんがあなたから離れて保育者に預けられるときの様子はどうか。一番近い項目をひとつ選んで下さい。

① よく泣くことが多く、なかなか親から離れられないことが多い。
② はじめは泣いたり、ぐずったりするが保育者の対応によって少しずつなれることが多い。
③ すぐに保育所の雰囲気や保育者に慣れて、親から離れていくことが多い。
④ その時々状態や保育所の様子によって異なる場合が多く、何とも言えない。
⑤ その他

14. 一時的保育を利用するようになって、お子さんの普段の様子は変わりましたか。

① 変わった。(それはどのようなところですか。)

② 特に変わった様子は無い。

15. 一時的保育にお子さんを預けるようになってからのあなたの気持ちはどうですか。次の項目から3つ以内(必ず3つ選ぶ必要はありません。一つまたは2つでも可)で選んで下さい。

① 精神的な「ゆとり」が持てるようになった。
② 子育ての楽しさが理解できるようになった。
③ 担当の保育者やほかの保護者と子育てについて話す機会ができた。
④ 子どもを預けるときはつらいが、自分のためと割り切れるようになった。
⑤ 子どもを預けるときはつらいが、子どものためと割り切れるようになった。
⑥ 親の役目を果たしていないのではないかと、という気持ちを持つことがある。
⑦ 安心して仕事(用事)ができるようになった。
⑧ 利用する前と変わらない。
⑨ その他

16. これからも一時的保育を利用する気持ちはありますか。ひとつ選んで下さい。

① 積極的に利用するつもりでいる。
② 必要に応じて利用したいと思っている。
③ どちらとも言えない。
④ あまり利用したいとは思っていない。

17. 一時的保育に望むことがありましたらお聞かせ下さい。各項目の①か②に0印をつけ、②の「望むこと」がある場合にはその内容をお書き下さい。

a) 保育時間

→ ① 今のままでよい。
② 望むこと

b) 保育料

→ ① 今のままでよい。
② 望むこと

c) 保育内容(保育所での生活、遊びや食事など)

→ ① 今のままでよい。
② 望むこと

d) 保育設備・環境

→ ① 今のままでよい。
② 望むこと

e) 保育者

→ ① 今のままでよい。
② 望むこと

* 質問はこれで終わります。ご協力ありがとうございました。